

全国から優秀12編
NIPPOが
事例研究発表会

NIPPOは、第6回事例研究発表会全国大会を21日に東京都中央区のマツダホールで行った。昨年全国10支店で行われた発表会に報告された91編のうち、内容が特に優れた12編を担当者が説明。当日のプレゼンテーションを踏まえ、役員らが審査を行い、最優秀賞には関東第一支店東京東出張所・大久保幸佑氏の



発表者ら

「首都高速ポットホール対策プロジェクト」を選んだ。大会には全国から約130人が参加した。大会の冒頭、水島和紀社長は「一人一人の能力

向上の総和が会社の優位性や競争力向上につながる」とした上で、「発表には支店や現場の経験、実績、データがたくさん盛り込まれている。共通の財産として生かし、水平展開によって技術や生産性の向上などに活用してください」と述べた。発表の優秀者には大久保氏を含め3人選んでおり、優秀論文賞には東北支店工事部・中澤稯氏（論文テーマ「国交省工

技術発表会

選考12編を発表

NIPPO

NIPPOは21日、東京都中央区のマツダホールで第6回事例研究発表会を開いた。全国から約130人の社員が参加し、計91編の

中から選考された12編の発表に聞き入った。論文、プレゼンテーション審査の結果、大久保幸佑氏（関東第一支店東京東出張所）の「首都高速ポットホール対策プロジェクト」が最優秀賞に輝いた。冒頭、水島和紀社長は「発表には支店や現場における経験、実績、データなどがたくさん盛り込まれている。それらを共通の財産として生かし、水平展開によって技術や生産性の向上などに活用してほしい」と呼び掛けた。今回の発表テーマは、技術関連のほか、総合評価落札方式における技術提案や評価点向上策など多岐にわたった。役員や本社長らによる審査が行われ、中澤稯氏（東北支店工事部）の「国交省工事における評価点アップについて」が優秀論文賞、大久保和氏（中国支店工事部）の「ISO路面における車外騒音の低減について」が優秀プレゼンテーション賞に選ばれた。

発表者による記念撮影

建設通信新聞
平成25年1月25日掲載

共通財産として水平展開を

事例研究発表会開催

NIPPO

NIPPOは21日、東京・中央区のマツダホールで「第6回NIPPO事例研究発表会」を開催。全国から社員ら約130

人が出席した。6回目となる今回は、昨年夏から秋にかけて全国10支店で行われた発表会で報告された91編の中から選考された12編が発表された。今回の発表テーマは、技術関連のほか、総合評価落札方式での技術提案や評価点向上策、営業部門からの発表など多岐にわたった。発表後、役員や本社長らによる審査



建設産業新聞
平成25年1月24日掲載

が行われ、事前の論文審査と当日のプレゼンテーション審査の結果から優秀者3人を選出し、最優秀賞、優秀論文賞、優秀プレゼンテーション賞として表彰した。

発表会の冒頭、水島和紀社長は、「市場が縮小する中で生き残るには、一人ひとりの能力向上が重要で、その総和として品質・技術や競争力の優位性に繋がればならぬ」と述べた。また、発表には、支店や現場での経験、実績、データなどが盛り込まれており、共通の財産として水平展開を図り、技術や生産性の向上等に活用し

てほしい」と挨拶した。受賞論文は次の通り。
▽最優秀賞「首都高速ポットホール対策プロジェクト」(関東第一支店東京東出張所、大久保幸佑)
▽優秀論文賞「国交省工